

第7章 太陽電池と未来社会「ジェネシス計画」



全人類のエネルギーをジェネシス計画で

このジェネシス計画が実現できれば、燃料が不要で膨大な太陽のエネルギーを、人類は手に入れることになる。

戦争は物の争奪が主要な原因である。物はつきつめていくとエネルギーのかたまりといえる。つまり、争いはエネルギーの争奪によっておこっているともいえる。たとえていうなら、鉄とアルミニウムの値段はなぜかを考えるとよくわかる。アルミニウムをつくるほうが、多くの電力、つまりエネルギーを使うから高いわけで、物の値段はごく一部の宝石や芸術品を除いて、それをつくりたり輸送したりするためのエネルギーコストということができ

る。

もし、ジェネシス計画ができ上がれば、人類はエネルギー問題から解放されることになる。そして、第1章でのべた今後の人類の人口増大に対しても、十分対応できるエネルギー源をもつことになる。とくに幸いなことに、発展途上国は赤道付近に多くある。そこは太陽エネルギーの恵みの大きいところである。

いつまでにジェネシス計画を実現しなければならないか

ジェネシス計画を実現するためには、前述の技術課題のほかに、非技術的な課題がある。まず、東西冷戦は終結したものの、地域的紛争がつづく世界で、ネットワークが可能になるのだろうか。たしかに、これは大きな課題である。しかし、人類はエネルギー資源の枯渇、地球環境の悪化という人類自身の存亡の危機に瀕しているのである。人類は否応もなく地球規模で問題解決に臨まなければならないように仕向けられている。

また、世界的ネットワークといえば、通信回線はすでに世界を網羅している。一九九〇年代にはいり、インターネットは世界中にくまなく張りめぐらされた。エネルギーネットワークも必ずや実現するであろう。

第1章で述べたように、化石燃料、とくに石油の枯渇は、二〇三〇―四〇年、つまり今から

